昭和五年五月廿二日　常磐新聞　〔第五十五號〕　…〔一〕…

（夕刊）

常磐新聞

毎日曜日休刊
定價（一ケ月）金三拾錢　（一ケ年）金三圓六拾錢　（郵稅）一ケ月十五錢
廣告料（一行）十二字詰　五十錢　指定二十錢増し
發行兼編輯印刷人　伊藤　榮太
發行所　福島縣小名濱町古港一　常磐新聞社

▽常磐論談

悪思想を處すル　青年の覺悟

小名濱芳友會員　皆川生

世界の大勢、文化益々長足の進歩を盡し凡ゆる點に於いて、其の恩惠に、浴しつゝあるは誠に欣快の念に堪らぬ、即ち我が大日本帝國いざる次第なり、

現今悪思想トウ〳〵と流るゝ現代に於て痛切に感じられるのは、現代青年輕佻浮薄なる責任であると深く感ずる事でありませう。農村は信ずる次第であります、我が帝國現代の思想界は、一大コン亂に陷いり、人類の末路文明沒落の時、茲に到つたかと思はる、我等一國民として、郷愛する青年諸氏の自覺を促さんとする趣旨に基き、本論を起稿す、抑々國家存廢の一大原因は大は國家、小は町村の中堅として活動する、我々青年の覺悟如何に依りて、左右さるゝは自他共に認むる所でありませうよ、

思想國難の今日、青年は等しく、思想的に、社會的に、窮に連綿として續く、萬國無比の國家ではありません、此の比類なき我が帝國の將來をして、光輝有らしむるは一にかゝつて、我等青年の双カタに有るを深く心得べきなり、願見るに世人動々もすれば、ジウ弱にソウなる理ソウの抱持者と傾き思想はコン亂の極に有なつて、國家の爲將、大小り、實に心あるものは、帝國將來の前途を憂慮して居る事でありませう、農村は信ずる次第であります、我等弊に陷り政治界は、只だ々は國を離れて存在せず、政私の爭大擧に浮身をやつす、黨人政治に外ならぬ、カシコクも、明治天皇が明治初年に宣せられたる勅語の中に——、

『天下億チョウ一人モ其處ヲ得ザル時ハミナナンガ罪ナリ』とある

此等尊き御言葉を承いり、ワレ等實に感位オシ能はざるの建設に努力する、我年の使命であり、且つ重大なる責任であると深く感ずるのである、青年は高遠なる、理想に基き古來法律の根本原理とするの正義公道に則り、勢レツなる愛國心を懷き、高潔な品格を養成し、我が帝國建國以來の精華を發揚すべきである、精神に則り、理想的國家の建設に努力する、我々青年の使命であり、且つ重大なる責任であると深く感ずるのである、青年は高遠なる、理想に基き古來法律の根本原理とするの正義公道に則り、勢レツなる愛國心を懷き、高潔な品格を養成し、我が帝國建國以來の精華を發揚すべきである、精神に則り、理想的國家の建設に努力する、我々青年の使命であり、且つ重大なる責任であると深く感ずるのである、青年は高遠なる、理想に基き古來法律の根本原理とするの正義公道に則り、勢レツなる愛國心を懷き、高潔な品格を養成し、我が帝國建國以來の精華を發揚すべきである、精神に則り、理想的國家の建設に努力する、我々青年の使命であり、且つ重大なる責任であると深く感ずるのである、青年は高遠なる、理想に基き古來法律の根本原理とするの正義公道に則り、勢レツなる愛國心を懷き、高潔な品格を養成し、我が帝國建國以來の精華を發揚すべきである、精神に則り、理想的國家の建設に努力する、我々青年の使命であり、且つ重大なる責任であると深く感ずるのであります。

愛町心にもいる、芳友會員諸君よ、常に、知德體の三筆を取る次第で有ります要素を養成し、町の中堅なる、セイ年となり、大小名濱町を背をい、萬進しようじやないか、僕は確く信じます

昭和五年五月十六日記す

新聞

野犬の巢と化す

小名濱町當局に取締りを勸む

然も小名濱町目拔の場所、有ヒゲ男歩きは無論の事、中島通りを夜分通行する人子も一驚を喫す事が度々あるは唯人も野犬の、バッコになる、此儘を以て推移したらは嚴かさるるならん、國體んには、完然に大道をヤ犬を組んで、五尾七尾と大道に占領さるるの恐れあり、の振舞には女、小供は一人を要望するものである、

珍無類の出來事

町議小松力通知もれの事

上公議室に於て急施町會を召集した、例の船入海岩埋立問題に就て、小のシン平小松力が缺席、小の氏は大阪行きの爲め不在は承知して居たが、小松力は在町の町會はズと、殊に本日の町會は町としての態度を決する、重大なる公議故、探ぐつて視ると、アニ計らんや、通知モレである事が判明した當の小松力は認めるのか認めぬのか、存在が忘れたのか、又は〇〇〇の爲め殊更に通知せぬのかと、大不平と小不平のカク雜なる、頭を抱へて、大憤慨、此問題は忘れたでは濟むまい、町當局では如何なる申譯をするか、又當の小松力は如何なる態度に出るか、カッ目して其成行を視ん、

四倉漁港　縣費支辨　港と決定

豫てモウ運動中なりし四つ倉港も愈々十九日縣費支辨する港に編入されたので、近く縣報で告示することになつた、爰には小名濱港江名濱然らば人間全部が悪い事をするのがムジンなのか、善事は水平線よりは殆ど出ないからだ、善事を爲せば、社會から譽められ、尊敬され、表シヨせらるゝに其事が出來ないとは不シ議ではあるまいか、

第十九回縣下産業大會

——須賀川町にて——

ポ丹ランマンたる十九日須賀川町にて、縣下産業大會會であつた。

開催された、協議問題一組小名濱組合出席者は左の通合員の負債整理をなすに、り

適切なる方法、支會提出一ヒ料配給に關し、産業組合の執るべき、方策聯合會提出等を協議し、委員を揚げて一任した——、

理事　長瀬金右工門
　　野崎　昇太郎
幹事　高木　保
　　小島　源七
　　高木　安吉

天下御免

社會の悪い事と善事をカッ目して見るが善い事より悪い事が餘りに多い、其處で新聞は悪い事丈けを書く機關の様になつて、しまふ。

此れ新聞が悪いのでなく、世の中が悪いのだ、人そのものが著しく悪事をヌキンでゝ善事は水平線よりは殆ど出ないからだ、善事を爲せば、社會から譽められ、尊敬され、表シヨせらるゝに其事が出來ないとは不シ議ではあるまいか、

人間と云ふ動物は悪すると人間と云ふ動物は悪い事をするが先天的で善い事をするのがムジンなのか、然らば人間全部が悪い事をするのが仕事にしたら如何するのが仕事にしたら如何なるものか、そうする事が人間としての天からの使命なのかも知れぬ、

犬は犬としての使命がある、然るにネコ仕事をせよと如何に酷めようが、アセろうが、不可能だ、其意味で人間も悪い事をする爲め、生れてきたとすればヨイ事せよと何程教へても、犬の仕事をネコに強ゆると同じではあるまいか……呵々——

天氣豫報

今晩　北東の風曇り
明日　北東の風曇り
當地の氣壓七百五十七ミリ

昭和五年五月二十一日
小名濱測候所

カフエー　なかよし　小名濱町中島本通り

讀者の領分

もので、手取り早く小名濱の爲めにするには、其の機關を設けなくてはならぬ、それには、常磐新聞さんの手を借りて、外交家理財家事業家、主宰家〔何物を寄せ來たつても、うまく寄せ纏めて調理する事に功者なる人を稱す其名は何とでもよい〕を町民から選擧させて『選擧用紙は常磐新聞に摺り込んだものを切り抜いて用ふ』それが決定したならば其人は義勇心を起して町發テンの計畫を樹つる重荷を負ふ事を町民に誓つて貰ひたい、其選定の曉に於て其人が爲す、一事一言には決して異義を言はぬ事としてやつて見たなら、必ず何事か小名濱を益する事が出來るだらう、斯くするには選に當つた人も選擧したものも、總て神の心佛の心になり、すまして、自然に信賴するよふにしなくてはならぬ、斯くすれば其の選に當つた人は、必ずやり損じた時に、腹を切ると決心してかゝるだろふ、此實が上つてこそ、小名濱の發テンは、勿論——世界に誇る善事業を遂すことが出來ると思ふ、ミナさん奈何ですカンの高祖は、ハカリゴトを惟握の中に運らし勝を千里の外に決するは、吾れ子房にしかず、國家を傾め、百姓を撫し、ショウクワイを給し、糧道を絶たざるは、吾れ、シク何にしかず百万の衆を連らね、戰へば必ず勝ち、攻むれば必ず取るは、吾れ韓信にしかざるなり、三人は三人傑なり、吾れ能く之を用うと曰へり之れを小名濱に引いて考へて見れば小名濱には小名濱だけの三傑がある、誰某誰某と擧げて數ふれば必ず長所のあるもの三人は得られる、けれども小名濱といふ所は妙に一種變つた氣質がある、之れは代官時代から植へつけられた、色變りの心から出るのかも知れぬ、茲に或一人が、小名濱の發展の爲めに、自己の私財を散じ、交を外に求めて何物をか得んとすれば、それは自己の爲めに、種子マクものなりとひがみ、相共にもり立てよふとはしないこんな風では、何時まで經つても、小名濱の發展する道がないではあるまいか、昨今崩メしつゝある小名濱報德會が發展すれば、ダン々善良なる思ソウが擴がつて行くであらう。

それは、天人が天の羽衣を以て岩面を磨き減らす樣な

小名濱中町
洋品雜貨仕立物
村上淨代二商店
▼良品廉賣ば村上のモットー……

藥品附屬一式
西村藥局
平町二丁目

小名濱町
內科小兒科婦人科
久保田醫院
〔電話二十二番〕

中鐵式船用セミデーゼル
發鐵機製作
中之作鐵工所
江名町中ノ作
電話九番 四十一番

植田町
磐城無盡商會
主事 大平菊次郎

船具
機械油 附屬品一般
小名濱水產株式會社
〔電話四十三番〕

縣立回春園一手御用
——理◇的殺菌——
全乳
小名濱町
すなや牧場部
〔電話一〇番〕

內科眼科
外科其他一般
首藤醫院
江名町

福島縣平町
磐城共濟病院

磐城水產工業株式會社
社長 小野晉平
總支配人 福尾伊太郎
小名濱町
〔電話六六 一一〇番〕

和洋銅鐵、金物問屋
釜屋商店
平町五丁目
電話九番 一三九番

▼酒は一六番
清水屋本店
小名濱町
〔電話六番〕